

デンソー山岳部 Bパーティー 11年度夏山合宿 報告書

山城 : 北アルプス

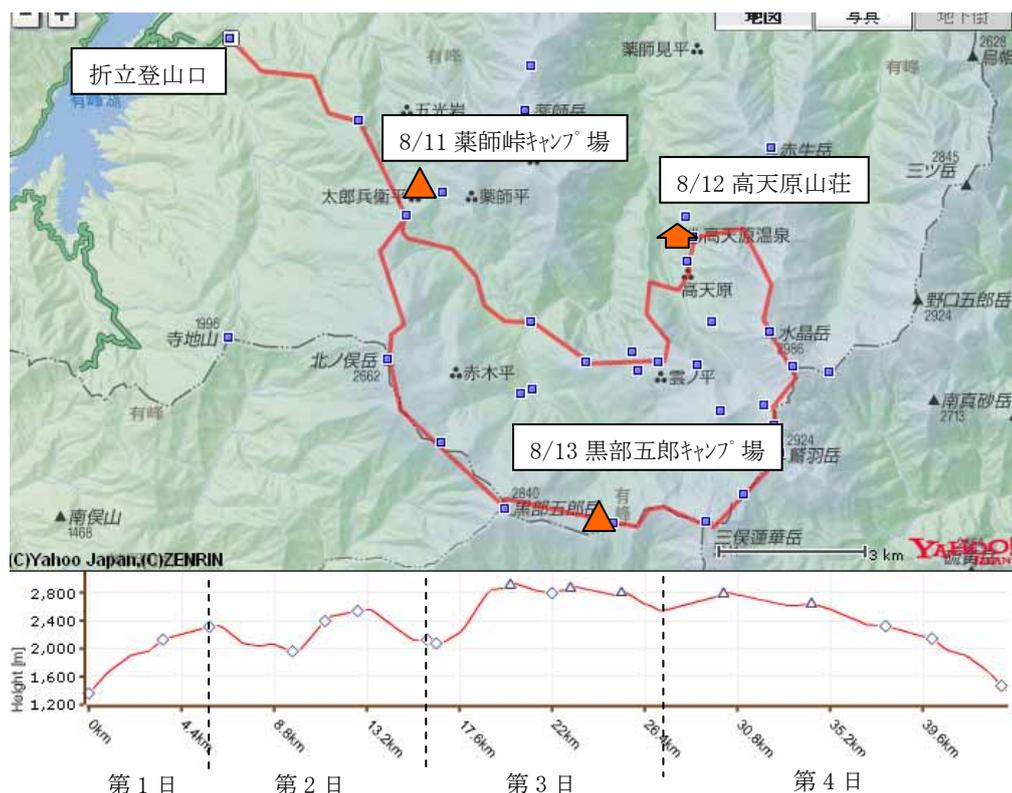
(折立～太郎平～雲の平～高天原温泉～水晶岳～鷲羽岳～三俣蓮華岳～黒部五郎岳～折立)

日程 : 2011年8月10日(水)夜～8月14日(日)、行動4日、予備日1日

メンバー: 岸上薫 (CL)、郡谷有希 (SL・渉外)、吉田明和 (装備)、
竹内幹雄 (食料・記録)、森朋哉 (記録リーダー)、杉本孝 (記録)、
金子清 (記録)、津田廣一 (気象・会計)、 以上8名



■今回のルート



第1日 : 8/11(木) 曇り時々晴れ 【森記】

【行動記録】 歩行=4H05M

※8/10前夜 本社N駐集合(19:50) → 道の駅カモンパーク新湊(00:40)

8/11起床(05:30) → 道の駅発(06:00) → 折立登山口より歩行開始(08:00)

→ 一本_1670m付近(08:55) → 一本_1870m付近(09:45) → 一本_2189m付近(10:45)

→ 太郎平小屋(11:35) → 薬師峠キャンプ場(12:05)

【折立登山口～太郎平小屋～薬師峠キャンプ場】

最終日の業務終了後、銘々にN駐に集合。竹内号・岸上号の2台に分乗しA隊と共に富山を目指す。有峰林道に通行時間制限あるため夜のうちに折立登山口へ入れず、A隊と共に一夜を過ごす計画である。途中場所の選択に悩みつつ、結局、新湊の道の駅へ(芝生で快適)。到着後AB合同でAM2時まで前夜祭。

翌朝A隊と別れ、一路折立登山口へ。駐車場はそこそこ混んでいる。本日は歩行5時間少々予定で時間的には余裕あるものの、初日で荷が重くやや不安になる。見上げるとどんよりした曇り空に小雨もちらつく(が、天候はその後回復し時折晴れ間も)。初日の1ピッチ目は先頭の郡谷さんが絶妙なペースで皆



名大山岳部の皆さんと

のウォーミングアップを助けてくれた。2時間ほど歩くと樹林帯を抜け、視界が広がるとともに整備された歩道となった。時折現れるベンチでは沢山の登山客が休憩しており、前方にも遠くまで大勢の隊列が見える。杉本さんのおやじギャグに余裕を感じた郡谷さんがそっとペースアップ?し先行パーティーを少しずつつ追いついていく。ほどなく足元は木道となり、いつの間にか太郎平小屋着。皆ビールを買い込み15分ほど離れたテント場へ。設営後、岸上・郡谷の2名は薬師岳アタック。残りは名大山岳部と交流回りつつのんびり過ごす。到着時ガスが出ていたが夕方には晴れ、今回目指す山々が見え一同気分が盛り上がった。

<付録> 薬師峠キャンプ場より薬師岳往復:岸上、郡谷 【岸上記】

【行動記録】 歩行=2H15M

薬師峠キャンプ場(12:20) → 薬師岳山荘(13:10) → 薬師岳山頂(13:40) → 薬師岳山荘(14:00)

→ 薬師峠キャンプ場(14:35)

初日、約5時間の行程を、メンバーの頑張りもあり、約4時間で走破。薬師峠キャンプ場に着いた後に、テントを設営して、2年前に登頂した薬師岳を懐かしみにSLの郡谷さんを連れて出かけた。ただ、山頂に近づくに連れて天気が悪くなり、霧雨状態で眺望が全くきかない。郡谷さんのモチベーションも上がらないため、薬師岳山荘にて待ってもらい、一人で山頂を往復してきた。2年前に来た時の五色ヶ原から薬師峠の苦しかった思い出も蘇り、とても懐かしくて良い思い出になりました。

**第2日 : 8/12(金) 晴れ 【竹内記】**

【行動記録】 歩行=8H40M

起床(3:00) → 薬師峠キャンプ場出発(4:30) → 太郎平小屋(4:50) → 薬師沢小屋(6:45) → アラ

スカ庭園(9:08) → 奥日本庭園(9:50) → 祖母岳(10:15) → 雲ノ平(10:50) → 高天原峠(12:

19) → 高天原山荘(13:10)、山荘(13:40) → 温泉(14時~15時) → 山荘(15:30) 就寝(19:00)

【薬師峠キャンプ場～雲の平～高天原山荘】

「起床」の掛声に目を覚ます。懐電を点けてシュラフを片付け朝食の準備をする。その間にテントの間から外を見上げると星空が見えている。良い天気の中を歩ける予感がしてくる。出来上がった朝食の「うどん」を食べ、お茶を飲んだ後テントを撤収、ザックを背負い出発する。足元が暗いので懐電歩行で進む

が太郎平小屋に着く頃には辺りは明るくなってきた。小屋に到着するとたくさんの登山者が小屋の外に出ていた。日の出を待っているようにも見えた。その中を我々は進んでいく。小屋を過ぎると高山植物が生息する場所の木道歩きとなる。その脇には朝露に濡れたチングルマが群生している。そんな清々しい朝の景色を眺めながら気持ち良く歩いていく。木道歩きが終わり樹林の中を少し下ると薬師沢小屋である。小屋の横は岩魚が釣れるエメラルドグリーンのととてもきれいな川があり、その上に吊橋がある。ここを渡り終えると今度は樹林帯の登りになる。急坂を辛抱しながらゆっくりと登っていく。やがて緩やかな登りとなり、樹林帯を抜けると目の前に景色が広がってきた。ア



チングルマ



薬師沢小屋の吊橋

ラスカ庭園に到着である。薬師岳、黒部五郎岳、水晶岳の眺めがとても良く、さらに奥日本庭園を経て、アルプス庭園のある祖母岳に寄り、ゆっくり休憩して大いに景色を楽しむ。そして雲ノ平に向かう。この間、登山道は平坦で時折、木道を通るコースでじっくりと眺めを楽しみながら歩いて行くことになる。雲ノ平から高天原峠は下りで途中から樹林帯の中に入る。やがて峠に到着、一本取る。目的地まで残り1ピッチだと思えば気持ちが楽になってくる。ここからは緩やかな登山道を進む。視界が徐々に開けてきてしばらく進むと前方に小屋が見え始めてきた。目的地の高天原山荘である。山荘に到着してしばらく

休憩した後、少し離れた所にある高天原温泉へ浸かりに行く。温泉は野天で2坪位の大きさかな。ここで湯に浸かり、持ってきたビールを飲みながら1時間程ゆっくりと過ごす。湯加減は浸かるのに程好い「良い加減?」である。湯の花が浮かんで「これぞ温泉」の気分を味わう。そして、山荘に戻り夕食の準備をする。この場所はテントが張れないため小屋泊まりである。小屋の前にある炊事場でご飯を炊く。「飯炊き名人」森さんのご飯を炊く「火加減」がとても上手で、おいしいご飯が炊き上がり、その上にレトルトカレーをかけておいしく頂くことができました。夕食の後は雑談を



高天原山荘手前



しながら、お酒を少し飲んで、日が暮れるまでゆっくりと過ごす。そして、山荘の中に入り寝る準備をする。合宿ではテントが常なので小屋泊まりは珍しい。宿泊者が多いのでふとん六組で八人が寝ることになった。それでもテントの中よりは広い場所である。ぐっすり眠れるような気がした。明日の朝は3時起床なので、出発準備の時に物音で周りの人に迷惑がかからないようにザックの荷物をしっかりとまとめて午後7時就寝となった。

第3日 : 8/13(土) 晴れ 【金子 記】

【行動記録】 歩行=10H15M

起床(03:00) → 高天原山荘発(04:05) → 一本_河原 2300m付近(05:05~15)
 → 一本_2600m付近(06:40~50) → 温泉沢の頭(07:30~40) → 水晶岳山頂(8:40~55)
 → 一本_岩苔乗越への分岐(9:55~10:05) → 鷲羽岳山頂(10:55~11:10)
 → 三俣山荘(11:50~12:05) → 三俣蓮華岳山頂(13:00~10) → 黒部五郎キャンプ場(14:20)

【高天原山荘~水晶岳~鷲羽岳~三俣蓮華岳~黒部五郎キャンプ場】

まだ登山者が寝ているなか身支度を済ませ小屋の外へ出る。小屋のテーブルで昨夜炊いておいた御飯で雑炊を作る。早々に食事を済ませ4:05に懐中電灯をつけ出発する。昨日入った高天原温泉まで下り、温

泉沢を登る。取付きは河原を左岸、右岸と渡渉を繰り返しながら進む。郡谷が渡渉で登山靴を濡らす。ルートは赤ペンキの目印がしっかりあり迷うことはない。取付きから1時間半ほど行くと左手の尾根に5m程のロープが垂らしてある。ここから尾根に取付く。急斜面を温泉沢の頭まで登る。北に赤牛岳、南に水晶岳が大きく見える。360度の展望を楽しみながらの稜線歩きは実に気持ちが良い。途中、雷鳥の親子と出会い心が和む。水晶岳までは、すれ違う登山者も少なく静かな山歩きだったが、水晶岳からは登山者で賑わっていた。鷲羽岳の急登を過ぎ三俣山荘に12:00頃着く。すでに出発から8時間が経過しメンバーに疲れが見えてきた。吉田が先輩諸氏に配慮してか三俣蓮華岳山頂を通らず黒部五郎キャンプ場へ行ける「巻き道コース」を提案するが誰も乗ってこない。メンバーの計画達成へのこだわりか。まだまだ展望を楽しみたいのか。体力強化を実行したいのか。チームワークか。合宿への想いか…。嬉しいひとコマだった。結果、全員根性で三俣蓮華岳山頂に登り黒部五郎キャンプ場まで下った。全員の頑張りで約10時間の行動が終了した。充実した1日だった。



第4日 : 8/14(日) 晴れ 【杉本 記】

【行動記録】 歩行=8H52M

起床(03:00) → 出発(04:30) → 一本_黒部五郎カール(05:20) → 黒部五郎・北ノ俣分岐(06:15) → 黒部五郎岳山頂(06:28) → 一本_赤木岳付近 → 北ノ俣岳山頂(09:30) → 太郎平小屋(10:45) → 一本 → 折立登山口(13:22)

【黒部五郎キャンプ場～黒部五郎岳～北ノ俣岳～太郎山～折立】

今日は合宿最後の日である。「今日で終わりなんだ。」と、ちょっと寂しい心境であるが、最後の1日を楽しもうと思った。黒部五郎キャンプ場を4時30分丁度に出発。5時20分ワリモ岳横だろるか、朝日が黒部五郎岳のカールを照らす。絶壁が眩しかった。6時15分、北ノ俣岳分岐でザックをデポし、空身で黒部五郎岳を一気に登る。6時28分頂上へ。そこは360度の大大パノラマの絶景であった。皆、各々のポーズで写真に収めるのに忙しい。北は劔岳、東に槍ヶ岳、南に笠ヶ岳、西に白山とその光景は素晴らしかった。「晴れで良かった」と、この日ばかりは本当にそう



思った。他パーティーに、我が山岳部全員の集合写真を撮って貰ったり、撮ったりしてあげて、ちょっと長めの滞在であった。分岐地点に戻り、1ピッチ歩いた北ノ俣岳手前の、赤木岳付近で1本とる。さらに1時間20分程歩いた9時30分、北ノ俣岳山頂で1本とる。ここからはアップダウンも緩く、一気に太郎平小屋へと進む。10時45分に太郎平小屋に到着。皆、少々お疲れ気味のような。ここで20分の休憩を取り、あとは下るだけ。天気が良いだけに喉が凄く乾いた。小屋で冷たいジュースを買う者が多かった。11時05分出発し、下り途中で1本とり、13時22分折立登山口に到着。皆、4日間の無事を祝い、握手を交わした。



■気象状況：津田

4日間を通し、行動中は雨に降られず（11日の夕方に少しばらついた程度）、天候には恵まれた山行であった（12日と14日は晴れ）。台風崩れの低気圧が日本の南に残るものの影響がほとんどなく、4日間を通し、太平洋高気圧の圏内にあった事が原因と考えます。



第1日（8/11）

1日を通して曇り
午前中、時々、薄晴れ
午後、テントを設営後
パラパラと小雨の時は
あった。
時々、微風



第2日（8/12）

晴れ
目覚めると満点の星空
微風で、登山には快適



第3日（8/13）

1日を通しては曇り
出発時、雲で覆われる。
沢を詰めている時曇り
沢の頭へ登りきる手前
ぐらいから急に晴れる
（6時半～7時半）。
以後、曇時々晴。微風



第4日（8/14）

快晴
黒部五朗の頂上も 360 度の
パノラマ。
体感温度は、暑い。
微風で暑さを和らげてくれた。

■装備：吉田

今回の合宿は、例年と比べるとB隊としては8名と参加人数が多かったため、共同装備の一人当たりの負担が軽かった。毎日が非常に長い道のりだったので、負担が少なくて非常に良かった。

早朝のテント撤収は素早くできたためほぼ定刻通りの出発ができ、規律ある行動をとることができた。

■食料 : 竹内

- 1日目 夕食 レトルト丼、味噌汁
 2日目 朝食 力うどん / 夕食 レトルトカレー、スープ
 3日目 朝食 雑炊 / 夕食 五目御飯、スープ
 4日目 朝食 ラーメン

米飯は
 夕食 6合/8人
 朝食 5合/8人

夕食はレトルトを中心とした食材を利用しましたが、最近は例えば「カレーライス」でも種類がたくさんあり買出しの時に各個人の好みで選ぶことができ、シンプルだけどそれなりに好みの味を楽しめたのではないかと思います。お米は炊く前にしばらく水に漬けておくと良い。今回は森さんが「火加減」を見てくれておいしいご飯を炊くことができました。行動時間が全体に長かったので食事の準備は簡単にできるものとなりましたが、それなりによかったと思います。

■会計報告 : 津田

収入		支出	
会費(8名) (13,000円/人)	104,000円	高天原山荘宿泊代(5,500円/人)	44,000円
差し入れ	8,000円	テント場代(500円/人*2日)	8,000円
町田B(5,000円)		高速代(行3000円、帰3350円*2台)	12,700円
片山さん(3,000円)		有峰有料道路代(1800円*2台)	3,600円
不破さん(しぐれ煮)		車代(750Km;10km/、150円/ 2台)	30,000円
		食料代	12,681円
		*寄付(東北義援金の一部)	719円
	112,000円		112,000円

■感想

<リーダー所見> : 岸上

皆さん、お疲れ様でした。全体的に天候に恵まれて、大変気持ちの良い山行でした。私自身も、北アルプスの雄大な景色(特に黒部五郎岳からの360度ビュー)を堪能出来た上に、高天原で温泉にも入る事が出来て良かったです。今回は、初日を除き、2日目以降は、平均9時間の行程を組み、全員が計画を怪我なく完遂できるか不安がありましたが、心配が杞憂に終わり、ホッとしていると共に、皆さんに感謝しています。特に、3日目に高天原-水晶岳-鷲羽岳を越えて、体力が落ちている中で計画通り、三俣蓮華岳のピークを全員で通っていった事が、皆の結束力と忍耐力の象徴かなと思いました。ただ、行動全体を通して見て、基本的には定刻通りの出発が出来て良かったのですが、朝起きてからテント撤収までの時間の使い方には、まだ工夫の余地があると感じました。まず、全体作業(朝食準備やテント撤収)を優先して、対応する事を心掛けて下さい。あと、新人女性でありながら、驚異の体力を持つ郡谷さん、SLとして皆を安定したペースで引っ張ってくれてありがとう、歩きも力強く期待どおりででした。

<メンバー感想>

【郡谷】今回初めての夏山合宿であり、初めてSLを努めさせてもらった。先頭を歩くということで、初めはやや緊張気味だった。なかなかペースがつかめず自分のスピードになってしまい、少し足早に進んでしまったのには反省。しっかりルート確認することや、ペース配分、メンバーの体調など、考えることができ、その都度学ばせてもらうことができ、とても充実した山行となった。

【吉田】2日目の薬師沢小屋からの急登後に開けた雲の平では、笠ヶ岳など周辺の山々が一望できた。祖母岳から見る雲の平山荘と、背後にそびえる水晶岳の景色一帯はまるでアルプスの少女ハイジを思わせるくらい素敵な眺めであった。いつか雲の平で一泊してこの景色を十分に堪能したいと思った。4日目はずっと登りたいと思っていた黒部五郎岳に登れた。この日は雲一つない快晴で、槍・穂高連峰がはっきりと見え、しっかりと目に焼き付けることができた。いつもは参加人数の少ないB隊だが、今回は個性あるメンバが8名も揃い、毎日が賑やかな山行となった。たくさんの仲間と一緒に登ることが楽しい山行につながるんだ、と今回は強く感じた。

【竹内】天気にも恵まれ山の景色をたっぷり楽しむことができました。また水晶岳はいつか登ろうと思っていたのでそれが実現できて嬉しかったです。三泊四日の長旅をメンバーと一緒に無事に歩くことができ充実した合宿となりました。

【森】今回「コース長め」「健脚揃い」の前評判について行けるかどうか不安だったが、準備よし天気よしペースよしで上手く乗り切れ、充実した山行を大いに楽しめた。個性あふれるメンバーとの合宿はいい

ものですね。個人的には7月例会で雨の笠新道を経験していたのが非常に役立った。軽量化・行動食・ペース配分の工夫に加え、なにより心に余裕あり。我が部の年間スケジュールにあらためて感心しました。

【杉本】この4日間、天候に恵まれ、2日目は、秘境といわれる雲の平の高原を歩いた事。また、中々行けない高天原温泉に入った事。最終日は、黒部五郎岳からの眺望の素晴らしさに、感動した。これがあるから山登りは止められない。

【金子】ロングコース（B隊）に8名が参加し、天候にも恵まれ、計画通り実行できたことに感謝します。岸上リーダーはじめ参加の皆さんありがとうございました。今回の合宿で気づいた点を記載します。

・計画で成功の7割が決まると言われる。今回、その計画が大幅に遅れ関係者で検討する時間が取れなかった。いろいろ理由はあると思うが遭難してからでは遅い。（次回は改善要）

・山行リーダーはメンバーの技量を事前に把握しておく必要がある。（特に新人）

・合宿は部のメイン行事です。個人山行の延長ではない。参加者の意識とプロセスが重要です。

・郡谷さん（SL）の強靱な体力とペース配分は御見事でした。

岸上リーダーを中心にメンバーがひとつにまとまり、楽しく充実した合宿ができました。

【津田】今回も本当にいい夏山合宿でした。メンバーに感謝、サポートしてくれた部員・OBに感謝、そして妻に感謝。高天原温泉に引きつけられての参加でしたが、本当に良かったと思っています。雲上の楽園、雲の平を経由しての2日かけての奥深い山中での温泉は、憩いの一時。褒められた事ではありませんが、山の中の露天の温泉に浸りながらの缶ビールは、美味い。最高！翌日は、懐電をつけて、高天原から温泉沢へ。沢を右へ左へと徒渉を繰り返し、何か、沢登りにも似た感じ。やがて沢を離れ急登に。ハ～ハ～と呼吸も荒く、トップの郡谷について行けない。2本目で、リーダーの岸上から、「共同装備で重い物出して！」と、屈辱的な声。3日目の食料を岸上に預けるとリュックが極端に軽くなった。3時間の登りと我慢比べする内に、まるで我々の温泉沢の頭への到着を祝うが如く、急に曇天から晴れへ。天からの贈りものか！360度のパノラマを楽しむ。曇りと薄晴れの中を、水晶、鷲羽、三俣蓮華とピークを越え、合宿中で最長の日が過ぎた。最終日は、快晴の中、黒部五郎のピークを踏み、計画通りに合宿終了。達成感を味わいつつ、温泉で汗を流し、富山の回転寿司に舌鼓。幸せな、幸せな山行だった。

■ 総括 : 岸上

今回は、8名もの大人数で山行が出来た事が何よりの収穫でした。Aパーティーと合わせると14名もの参加者で合宿を盛り上げることが出来て、部の活性化が形になって現れていると考えます。ただ、一方でCLの私も含めて個人山行の延長になっている所があり、今後の改善必要事項だと思う所を書きます。

① 山行計画

下調べが十分でなく、集会でも時間の制約で計画の吟味がされなかったため、生煮えで約2週間前まで、折立に入る通行規制を把握しておらず、急遽の計画変更をすることになり、正式版を出すのが遅れた。遭難対策の連絡先変更がないかを確認する事も含め、前月の集会までに計画書を作りこみ、集会でも時間を取って、計画をしっかりと吟味することが必要と考えます。

② 留守部員

・募集をするのが遅れた ・留守部員に対しての部員の関心が低い の問題があると考えます。合宿は春・夏・冬の3回ある事がわかっているため、総会時などに事前に協力を打診する事と、留守部員の必要性や、具体的に対応する事を部員に浸透させる事が必要と考えます。

③ 平地合宿

他の行事と重なったこともあり、本来2週間前に実施する予定だったものを、急遽1週間前に変更したため、全員参加が出来なかった。合宿参加者が、全員参加で臨めるように2週間前に正しく実施する事と、装備点検・買い出しだけでなく、計画を共有する時間も取ったらどうかと考えます。

CLの私自身が反省することが大ですが、部員全員で問題認識を共有し、次回合宿に繋げていければ良いと思います。いろいろと書きましたが、合宿参加者がたくさんいる事が、一番大事だと思いますので、来年もたくさんのメンバーで合宿を盛り上げていきましょう！最後に、差し入れを頂きました町田部長、片山さん、不破さん、また留守部員を引き受けてくれた山田CL他部員の方に、感謝を申し上げます。

以上